

第1回千葉市ふれあい自然観察会

コアジサシと浜辺の生き物

奥村 昭 (千葉市)

日 時：2013年6月22日(土) 天候：晴れ

場 所：検見川浜(千葉市)

参加者：19名(内子ども3名)

主 催：千葉市環境保全課 自然対策室職員：3名

担当指導員：奥村 昭 佐藤一枝 島村信吾 武田宏子 田島正子 盛一昭代
(事務局：晝間初枝)

台風の影響を心配しましたが、当日は朝から晴れて予定通りの開催となりました。

観察場所の検見川浜は、昔、打瀬舟と言う帆掛舟で貝採りが行われていましたが今はその当時の3km位先まで埋め立てられています。その頃、近辺には沢山のコアジサシが来ていましたので、千葉市の鳥として「コアジサシ」が選ばれています。そのコアジサシの繁殖を助けるため、この検見川浜では、毎年4月末から7月までロープを張って保護区域を作り、営巣を助けています。

数年前までは、卵の位置を確認、営巣を見ることができました。しかしここ数年、理由は特定できませんがコアジサシの営巣は確認されていません。去年は、ここをシロチドリが繁殖に使っていましたが今年もそれ確認出来ていないようです。

集合場所の市立病院から海岸に出ると、そこは一寸前にハマヒルガオが満開になっていた砂浜です。ここで見られる突堤の先にはウミネコが十数羽、最初のスコープの出番です。砂浜は潮の引き始めた時間で、タマシギゴカイの糞塚が出来始めています。ここでは、ムラサキイガイ、イソガニ、ホンビノスガイ、



アマモ。海岸植物は、オカヒジキ、ツルナ、ハマボウフウ。樹木は、シロダモ、タブノキ、ユズリハ。海岸側には、潮風に強いトベラ、マサキ、ハマヒサカキ、それにシャリンバイ。シャリンバイにはこの木にしか付かないサツマキジラミを確認しました。

貸し出し自転車の事務所前の砂浜では貝殻の採集です。埋立地には房総の尾根からの土が使われているので昭和の森の貝と同じ種類があるかも知れません。皆さんに集めてもらった貝をここで生きている貝と持ち込まれた貝に分けます。一般参加で来ていた夢鯨倶楽部の清野さんに手伝って頂きました。ナミマガシワという貝は、ここではあまり見られないとのことでした。稲毛よりの突堤の足にはびっしりカンザシゴカイの仲間が棲んでいます。その間にはイソガニ、フナムシ、イソギンチャクなど小さい海の生き物が沢山います。

最後の観察場所はヨットハーバーです。ヨット桟橋の貝を見て、ヨットハーバー事務所の庇のイワツバメの観察です。残念ながら巣の残骸ばかりで、子育てしているイワツバメは見られません。ただ普通のツバメの子育てが見られました。

皆さんにはタカノケフサイソガニ、長い名前の海草、ビックサイズのハマグリ(ホンビノスガイ)など、興味ある海の生き物に関心を持って頂きました。コアジサシの声も姿も、お見せできなかったのは残念です。別の班ではツメタガイの産卵が見られたとのことでした。

